

現代民俗学会 第13回運営委員会 議事録

【日時】2010年6月13日 10:00～13:00

【場所】東京大学東洋文化研究所7階汎アジア部門室

【出席者】石本敏也、及川高、小熊誠、門田岳久、小島孝夫、菅豊、武井基晃、塚原伸治、徳丸亜木、中野泰、古家信平、渡部圭一

(備考) 今回の運営委員会は、5月22日の総会で選出された第2期運営委員による1回目の運営委員会である。

一. 研究企画委員会 (菅委員)

1. 第6回(夏季)研究会の進捗状況について

第6回(夏季)研究会「討論 福田アジオを乗り越える」の進捗状況についての報告に続き、福田氏への質問の募集が改めて告知された。

2. 今期(本年度、来年度)の研究企画、担当者について

今期(本年度、来年度)の第7～13回研究会および2011・2012年度年次大会について、担当者の決定およびタイトル案について報告された。ただし、第8回(2010年冬季)以降はいずれも仮タイトルで、今後企画の進み方によって変更がありうると補足された。

また、春季研究会は年次大会のシンポジウムと関連したプレシンポジウムとし、同じ担当者が担当する計画が示された。

3. 第7回(秋季)研究会の企画と担当について

菅委員・中野委員が担当し、中国の非物質文化遺産保護をテーマに施愛東氏および数名の登壇者を計画中であると報告された。

4. 「年次大会・研究会開催についての申し合わせ」について

申し合わせの改案が示され、議論を経て承認された。

二. 編集委員会 (徳丸委員)

1. 第3号のエントリー募集について

6月19日までエントリーを受け付け中であることが報告された。

2. 第3号の刊行予定について

詳細は次回以降の議事となるが、前年度より編集作業を一ヶ月ほど前倒しして進め

る計画が示された。

### 三. 総務委員会（武井委員・石本委員・及川委員）

#### 1. 第2号の発送状況

6月7日に発送済みであること、来年は会費を支払い済みであることを明記した一文を付けること、執筆者への抜き刷りの発送は今年（6月）中に行うことが報告された。

#### 2. 入会者・退会者の承認

前期運営委員会が年次大会前に承認した4名の入会希望者について確認された。

加えて、年会当日～6月上旬までの入会希望者6名の入会が承認された。

前年度付で退会した2名について承認された。退会理由が確認できないか意見が出された。

入・退会の承認については速やかに行い、運営委員によるメール審議（月に1～2回程度）で承認し、直後の運営委員会で議事録に残すこととなった。

入会の流れについては《①入会届受領→②すぐに総務から受領確認（メール）→③運営委員による承認（メール審議）→④会費納入の案内（郵送）や名簿追加などの手続き》とする。

退会の流れについては《①退会届受領→②すぐに総務から受領確認（メール）→③退会希望者の会費支払い状況を確認→④運営委員による承認（メール審議）→⑤退会確認の正式書面（メール）や名簿削除などの手続き》とする。

#### 3. 会費未納者について

2009～2010年未納者には、第2号と会費納入を求める文書を送付することになった。

2008～2010年未納者には、会誌を送付せず、第2号が出たことと会員資格にふれた文書を送ることに決まった。

#### 4. 各委員会の組織

運営委員の担当分け、各委員会の委員の委嘱について次の通り確認された。

##### 【第2期運営委員】

石本敏也、及川高、小川直之、小熊誠、門田岳久、小島孝夫、菅豊、武井基晃、塚原伸治、徳丸亞木、中野泰、古家信平（会長）、渡部圭一

##### 【各委員会】（※は委員長）

- ・研究企画委員会：岩本通弥、小熊誠、門田岳久、菅豊※、中野泰、室井康成
- ・編集委員会：大里正樹、小川直之、川田牧人、鈴木寛之、田村真実、塚原伸治、徳丸亞木※、林圭史、村上忠喜、山泰幸、渡部圭一
- ・総務委員会：石本敏也、及川高、岡田真帆、小島孝夫、後藤知美、武井基晃※、古家信平、松岡薫

## 5. メール審議の位置づけとガイドライン

運営委員によるメール審議はあくまでも合意形成の過程であり、「承認事項」と「緊急の議題」に限られることが確認された。入会者・退会者の承認は、メール審議で速やかに行うことに決まった。

十分な審議時間を取るためにも、「発議（送信）日時から 72 時間を審議時間とし、土日は除く」というガイドラインが出され、承認された。

## 6. 会計

6月現在の会計報告がなされた。会員数 123 名（内訳 一般 95 名、学生 28 名）。

## 7. ウェブ関連

会員宛の情報発信について、総務委員会より「メールマガジン」の刊行が提案された。「毎月 15 日の定期刊行とし、情報締め切りは 10 日とする」という案が示された。

定期刊行とは別に、必要に応じて「特編」と「リマインダ」を会員宛に送り、研究会の開催の告知などに対応することも提案された。なお、特編はサイトの更新と連動するものとし、現在メールではなく書面で通知している数名の会員については以降、この特編分のみを郵送することで対応が可能である。当座、及川委員がメールマガジンの編集と配信を担当し、古家委員と武井委員を監修とすることに決まり、分担や人員の拡充は様子を見て運営委員会に諮ることになった。

## 四. その他報告

### 1. 年会実行委員会より（徳丸委員）

2010年5月22日に開催された年次大会について報告された。

### 2. 選挙管理委員会より（武井委員）

2010年5月22日の運営委員選挙について報告された。

※次回の第14回運営委員会は、夏季研究会と同日の7月31日(土)午前、東京大学にて開催することに決まった。開始時間は後日調整の上で決定する。